

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和7年12月12日
長崎市立歎刈小学校
学校だよりNO. 126
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～薬物乱用防止教室～

薬物の魔の手が低年齢化している世の中です。小学生のうちから「薬物」等の使用の恐ろしさについて学ぶ機会はとても貴重です。この日、長崎税関の方々にお越しいただき、6年生を対象に「薬物乱用防止教室」を行いました。

「薬物乱用」という言葉は、何度も使っている人に使われると思われがちですが、「1回」でも使用すると、「薬物乱用」ということになります。



空港などでも活躍している「麻薬探知犬」が本校の体育館に2頭来てくれました。



薬物をもっているかもしれない怪しい人たちが並んでいます。手荷物チェックなどを想定し、数名の子供たちが一列に並んでいます。

みんな怪しげです。



麻薬探知犬が子供たちの間を通り、薬物を所持していた場合には、その人の前に静かに座ります。吠えたり、暴れたりするのではなく、すっと人の前に行き、静かに座りました。これは本当に見事でした。



薬物を見事発見した探知犬は、職員の方に遊んでもらえます。探知犬は、訓練するのではなく、「薬物をかぎ分けたことで、遊んでもらえる」というご褒美をもらいながら、育っていくということでした。



長崎税関の方々にお越しいただいていましたので、薬物のことだけではなく、「税関」の仕事についても、教えていただきました。



税関の仕事を教えていただいた後は、各学級の代表の子どもたちが実際に旅行ケースから「薬物を見つける」仕事体験をしました。いろいろなところに隠してある「薬物の入った小さな袋」を何とか見つけ出していました。



最後に、税関の仕事などについてのおさらいクイズがあった後に、税関の仕事についてなど、子どもからはたくさん質問が出されました。

子どもたちは今回、薬物の恐ろしさは当然のことですが、税関の仕事についても、広く学びました。興味をもった子どもの中から、将来国家公務員試験に見事に合格し、税関で働く子どもが出てくるかもしれません。

将来の選択肢がまた少し広がった6年生への薬物乱用防止教室でした。

畠刈小学校は

「**子ども真ん中**」の学校

「豊かな心をもち、自ら考え行動できる子どもたち」を支えています。